

vol. 279

Spring 2025

お茶の水女子大学の今を伝える広報誌

Ochadai GAZETTE

お茶大ガゼット

Contents

02 | 語りつごう 明日へ!

佐々木 泰子
お茶の水女子大学長

04 | お茶大生協とつくる 安心・充実のお茶大ライフ

08 | 教員紹介

秋元 文
共創工学部人間環境工学科 准教授

09 | 卒業生紹介

寺垣 沙織 さん
文教育学部人文科学科地理学コース 卒業

10 | 附属学校園からのお知らせ

お茶の水女子大学附属中学校

語りつごう 明日へ！

本年11月29日に創立150周年を迎えるお茶の水女子大学は、日本で初めての女性のための高等教育機関として1875年に御茶ノ水(現文京区湯島)の地に、東京女子師範学校として設立されたことに始まります。その後、女子高等師範学校、東京女子高等師範学校と名称を変え、1949年に新制の国立大学、お茶の水女子大学となりました。翌年、文教育学部、理学部、家政学部(現在の生活科学部)の3学部を持つ女子総合大学となり、1963年には修士課程、1976年には博士課程が設置されました。そして、昨年4月に共創工学部を新設するなど、教育・研究環境を整えながら、たゆみない発展と進歩を遂げてきました。2004年には、現在の国立大学法人お茶の水女子大学となり、「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」というミッションを掲げ、国籍や年齢を問わず学ぶ意欲のあるすべての女性たちの成長と資質・能力の開発のための支援をしてきました。

本学は、その長い歴史において教育・研究分野をはじめとして社会で活躍する多くの女性人材を輩出してきました。女子教育に

力を注ぎ、東京女子大学第二代学長となった安井てつ、日本初の女性理学博士となった生物学者の保井コノ、女性初の帝国大学生となり、英国に留学して理学博士となった化学者の黒田チカ、緑茶の成分について研究を重ね、日本初の女性農学博士として活躍した辻村みちよ、米国に留学した後、男女共学論を唱えて活躍した小泉郁子、そして第二次世界大戦前後にフランスに渡り、フランスを拠点として活躍し、日仏の研究者交流に尽力した物理学者の湯浅年子。他にも、お茶の水女子大学は創立当初から現在に至るまで、熱い志をもった教育・研究のリーダーたちを輩出し、しかもボーダーレスに大きな役割を果たしてきました。

そのような卒業生の一人に、1937年(昭和12年)に東京女子高等師範学校家事科を卒業し、日本初の女性一級建築士として活躍した浜口ミホがいます。浜口は、『日本住宅の封建性』(1949)によって、家庭内での身分の上下関係でしいたげられている女性の側から、日本の住宅の封建性を指摘し、第二次世界大戦後の民主的住宅のあり様について理論づけました。ちなみに、住宅公団に

おけるステンレス製システムキッチンの開発によって、「ダイニングキッチン」の誕生に貢献しました。それは単なるキッチン革命にとどまらず、現在にもつながる家庭における女性の地位向上、さらにはメンバー間の対等な関係性の承認という人びと／社会の近代的家意識の醸成に寄与するものでした。近年、国内外でその功績が再評価され、建築やジェンダーの視点から論文や図書で論じられることも多く、NHKのドキュメンタリー番組や民放のドラマでも取り上げられ、広く社会的関心が向けられています。

ここでは、そのような浜口が学んだ本学の前身である女高師家事科について振り返ってみたいと思います。明治期の日本ではあたかも規範のごとく家庭での女性の封建的な役割意識がみられ、女子教育において裁縫などの家事に関する教育が重視され、師範学校ではその指導にあたる教員の資質を高めることが重点課題となっていました。『東京女子高等師範学校60年史』には、1899年(明治32年)に文科・理科に加え芸芸科(後の家事科)を新設して文・理の2科と相対立させたのは、女子教育史上注目すべき事として、

「家事科が女子教育上緊要の一地位を占めることは言ふまでもない。一中略一 故に本校が新たに芸芸科を増設して文科・理科と相対するやうにしたのは、家事専門の教員養成の嚆矢で、我が国の女子教育上家事科の発達を促進した一大原因であろう」と記されています。

このように当時の家事科は、まるで江戸期の「女大学」の残像を追うように、社会の要請に応える良妻賢母主義とも言える教育課程を推進していたと言えるでしょう。しかし、家事教育について学ぶことを目的として英国に留学した卒業生、大江スミ、成田順らによって従来の裁縫や調理などの技術教育に対し理論的裏づけの必要性が認識され、徐々に研究・教育の体制が整備されていくこととなりました。また、『お茶の水女子大学百年史』を見ると、「大正十三年家事科卒のある卒業生のドキュメントには、寮生活に触れて、「同室の中の最上級生が室長で、一応、室の取締りの任を持っていた訳であるが、かつて軍隊生活にあったような、必要以上の権利を振り回して下級生を服従させる様なことは少しもなかった。舎監の先生は、

一定の時間に舎内巡視しておられたが、部屋の内部の生活には、干渉されなかった」とある。このような多少とも自由な雰囲気は、後述するこの時期の卒業生たちの生涯にわたる多様な生き方と、おそらく無関係ではない」と、規律はありつつも各自の個性を尊重し内なるリーダーシップが育っていった、当時の自由な雰囲気が感じられます。

本学では、実に草創期から、社会の要請に応えつつも最先端の研究成果を取り入れ教育課程に反映し変革を続けること、さらには学生の自主性を尊重する教育環境が多く活躍する卒業生を輩出するなどしてきました。そして、それは今もなお確かな伝統として受け継がれているのではないのでしょうか。浜口ミホが1966年に設計したG邸(「津田山の家」)はDOCOMOMO Japanによる2022年度選定建築物に指定され、「日本の近現代建築史を語るうえで重要なマスターピース」として保全が決まり、改築され、今も大切に住まわれています。

語りつごう 明日へ！ - それは、歴史から学び・省み、真摯に自らの与えられたマテリアリティを見つめ、共感と信頼にもとづい

て未来を切り拓いていくということに他なりません。お茶の水女子大学は、これからも伝統に甘んじることなく、すぐに目に見える形で現れる教育や研究の成果だけでなく、持続可能でより良い社会の発展に寄与する大学であり続けることを目指してまいります。



2025年4月
お茶の水女子大学長

佐々木 泰子

安心・充実のお茶大ライフ

お茶大生協
とつくる

1959年に設立されたお茶の水女子大学生協。キャンパスの中で欠かせない存在となっている生協について、今回の特集ではその役割とサービス、学生の活動をご紹介します。

生協の概要

大学生協は、大学の構成員である学生・教職員が充実したキャンパスライフを送ることを目指し、協同で運営・利用する組織です。

コンビニやスーパーとの違いは、生協が消費者である組合員みずからの出資によって運営される団体という点にあります。大学生協は組合員である学生・教職員から出資金をお預かりし、さまざまな商品やサービスを提供しています。お茶の水女子大学から卒業や退職される際(脱退時)には、生協の運営ルールである定款の定めに基づき、出資金が返還

されます。生協は組合員がみんなで作くり、運営する組織であるため、重要な事項はみんなで決定します。活動方針について話し合う「総代会」と呼ばれる会には、学生も立候補することができます。詳細は生協HPをご覧ください。

キャンパスの中央に位置するお茶の水女子大学生協は、1959年に学生の声から設立され、学内で65年間に渡り学生・教職員の生活や学修・研究を支えてきました。2階の大学食堂(NSSOL Kitchen)と1階の購買書籍部・本部から構成され、毎日たくさんの学生・教職員が利用しています。2019年には、「Refresh・Link」をコンセプトにして学生や教職員が気分転換できる空間として生協1

階がリニューアルしました。「人と人」、「人との」など、多くのつながりが築けるお店を目標にしています。改修はお茶の水女子大学消費生活協同組合の寄附で行いました。リニューアルを機に、多目的ホールに「...noma(ノマ:みんなの間)」、店舗に「...noco(ノコ:みんなのCOOP)」と愛称がつけられました。「...noma」には電子レンジなども整備され、購入した商品の飲食や、オンライン授業の受講など、学生の憩いの場となっています。

お茶の水女子大学生協
ホームページ



大学食堂 (NSSOL Kitchen)

大学食堂(NSSOL Kitchen)は11時から13時30分までの昼食営業と、16時30分から18時30分までの夕食営業を行っています。*

昼食営業は1日約500名が利用します。カフェテリア形式で自分が食べたいメニューを自由に選ぶことができ、麺類や丼、カレー、デザートなど、1日約30種類のメニューが週替わりで並びます。季節メニューやイベントメニューも月替わりで提供され、毎日利用しても飽きのこないメニュー構成となっています。夕食営業は量り売りのビュッフェ形式で、1日約25種類のメニューの中から、自分の好きなメニューを好きな量だけ取り、グラムで測った料金を支払うシステムです。昼休みには学生が列を作ることもある食堂ですが、夕食営業は比較的ゆっくり利用することができます。

また、昼食営業と夕食営業の間の14時から16時は、学生のための自習スペースとして開放しています。「飲食や会話が可能で、友人たちと勉強ができる場所が欲しい」という学生の声を受けて実現したものです。

そのほか、サークルや研究室、学会等の懇親会の会場としても利用することができます。

※土日祝日を除く。夕食営業は講義期間中のみ。詳細は生協HPをご覧ください。



購買書籍部

購買書籍部では、お弁当やパン、お菓子などの食品や飲料を販売しています。店内の厨房で焼き上げる焼き立てパンは、学生の皆さんに非常に好評です。文具や日用雑貨なども取り扱っており、実習に必要な白衣や割烹着、保護メガネなども購買書籍部で購入が可能です。また、教科書をはじめとする書籍の販売も行っています。

さらに、大学での学修・研究に必要なパソコンやソフトウェアの購入、運転免許取得のための教習所申し込み、資格取得や就職活動のためのスクール申し込み、語学留学、海外旅行・国内旅行、ゼミ合宿の申し込みなど、大学生活をサポートするさまざまな商品やサービスを取り扱っています。

お茶大オリジナルグッズの販売も購買書籍部で行っています。オープンキャンパスや微音祭でもグッズを販売していますので、ぜひお立ち寄りください。



お茶の水女子大学生協
新名 謙二 理事長
(文教育学部教授)

学生の皆さんにとって大学生協は、食事や買い物をする場所というイメージがあるかも知れません。それも大きな役割ですが、「生活協同組合」という名称にあるように、組合員が互いに助け合ってよりよいキャンパスライフを送るためのサポートをすることが本質的な役割です。多くの皆さんが生協の活動に参加されることを期待します。



お茶の水女子大学生協
矢葺 誠司 専務理事

日頃より生協をご利用いただきありがとうございます。お茶大生協は全国にある大学生協の中でも設立からの歴史が長く、お茶大の学生・教職員の参加と利用で運営が続いています。お茶大生協はこれからも、お茶大の学生・教職員のよりよい大学生活を身近で支える存在として力を発揮していきたいと思っています。引き続き日々の利用や運営への参加をお願いします。



お茶の水女子大学生協
購買書籍部
森戸 智亜貴 店長

生協の購買書籍部では、ご入学からご卒業まで(入学時のパソコンや教科書の購入から、卒業式のはかまレンタルまで!)学生をはじめとする組合員の皆様の大学生活をサポートする商品・サービスを取り扱っています。さまざまな場面で生協をご活用いただき、充実したお茶大ライフを送っていただければ嬉しいです。ご利用お待ちしております。

お茶大生協で活動する 学生のご紹介

お茶大生協
学生委員会
公式キャラクター
ぶにゃこ

お茶の水女子大学生協では、さまざまな学生が、生協職員と一緒に活動しています。
それぞれの活動内容についてインタビューしました。

生協学生委員会

生協学生委員会は、お茶大生協とお茶大生・教職員をつなぐ存在として、学生ならではの目線から、みなさんの大学生活をより良くするための活動を行なっています。私は新入生の時におともだち企画や入学準備説明会に参加し、自分もその運営に携わりたいと思い生協学生委員会に入りました。

おともだち企画とは、新入生の「入学後に友達ができるかな?」という不安を解消するために、生協学生委員会が開催しているイベントです。学科ごとに集まり、新入生同士で自己紹介やレクリエーションをします。毎年何百人という大人数が参加するため、少ない委員会のメンバーではすべての箇所手が回らないこともあります。工夫しながら運営して

います。また、新入生のみなさんが大学生活を楽しく始めてもらえるように、情報冊子『少し先に春が来た』『春が来た』も作成しています。アンケートをもとに、入学までの過ごし方や合格体験記、入学後のお茶大生の1日などを掲載しています。

新入生やお茶大生のために何かしたいという思いがある方、ぜひ生協学生委員会のメンバーに入りませんか?

生協学生委員会委員長
成澤 萌奈未さん(理学部数学科3年)

■ 1年間の活動

4~7月	オープンキャンパス 受験生相談室の準備&運営	10~12月	『少し先に春が来た』 作成&入学準備相談会
6~11月	微音祭物販の準備&運営: お茶大グッズの販売を行っています	12~3月	『春が来た』 作成&入学準備相談会

新入生向け情報冊子▶
『春が来た』



▶ 早期合格者向け
情報冊子
『少し先に春が来た』

TABLE FOR TWO

Ochasは「食べる幸せ」を広げることを目的として、いくつかのチームに分かれて様々な活動を行っている大学公認サークルです。

チームの1つであるインターナショナルチームは、自分たちで考案したメニューを1食あたり20円の寄附金をつけて生協食堂で提供し、集まった寄附金をTABLE FOR TWO(TFT)を通じて途上国に寄附する活動を行っています。TFTは、栄養失調で苦しむ人々と、肥満状態にある人々との間の食の不均衡の解消に取り組む団体です。20円というのは途上国の給食1食分の金額なので、TFTメニューを1食食べるごとに途上国へ1食分の給食を贈ることができます。



叶内 理帆さん
生活科学部
食物栄養学科2年

橋本 真由子さん
生活科学部
食物栄養学科3年

有木 美遥さん
生活科学部
食物栄養学科2年

2024年度は「豚肉と小松菜のピリ辛丼」「エビピラフの秋のシチューがけ」「鶏肉とごろつと野菜の甘酢あんかけ丼」の3つのメニューを提供しました。どのメニューもおいしくヘルシーになるように工夫されています。たくさんの方に食べていただき、合計1,009食を

提供し、20,180円の寄附金を集めることができました。「おいしかった!」という声もいただけ嬉しかったです。次回は2025年5月に行う予定なので、楽しみにしてください!

Ochasインターナショナルチームリーダー
大野 レナさん(生活科学部食物栄養学科3年)

OchaEco弁当



■ OchaEco弁当販売の様子



本取組について学会で発表し、優秀賞をいただきました。重要な取組、と多くのお言葉をいただきました。

お茶の水女子大学生協食堂では、食品ロス削減のため、昼食営業後の売れ

残りを詰めた「OchaEco弁当」を販売しています。食品ロスの課題解決のために、お茶大生協、SDGs推進研究所、栄養教育学研究室が協力して始めた取組です。

「売れ残り」というと聞こえが悪いかもしれませんが、通常営業で提供している料理と変

わりません。ご飯付きの弁当を300円、おかずのみの弁当を200円とおいしい料理をお得に食べられ、食品ロス削減にも貢献できる、と学生からの人気が高いです。昼食営業終了後、OchaEco弁当の販売前に行列ができ、即完売することも多くあります。音羽館の学生など、ご飯を持参して、おかずだけ買って一緒に食べるなどの上級者もいらっしゃいます!

販売時間は13時40分から14時00分で、生協食堂のカウンターで販売しています。空きコマで時間がある日やお昼代を節約したい方など、ぜひお試しください!

栄養教育学研究室
久称田 珠暉さん(ライフサイエンス専攻
食品栄養科学コース博士前期課程2年)

プラントベース

私たちプラントベース企画は、OCHA-SDGs学生委員会の一プロジェクトです。2023年度から、大学公認サークル・Ochasと連携し、生協食堂でのオリジナルプラントベースメニューの考案を行っています。OCHA-SDGs学生委員会は、それぞれの考える社会課題の解決のため、学生が主体的に企画・運営を行うお茶の水女子大学 SDGs推進研究所の学生組織です。2024年度には、身近な植物性素材である豆乳を使用した「夏野菜の冷製豆乳うどん」と、近年注目を集めている代替肉を取り入れた「大豆ミートと夏野菜の甘味噌炒め」を考案しました。また、これまでに人気の高かった「ライスミルクの



■ 学食販売購入者アンケート実施風景

かぼちゃスープ」を、お茶大生向け試食会で得たフィードバックを基に、「シナモン香る!アーモンドミルクのかぼちゃスープ」にリニューアルして提供いたしました。いずれの商品も、1日の限定数を上回る日が続く等、ご好評いただいています。

温室効果ガス削減や食糧問題に配慮した植物性素材を、健康や味の観点からも楽しんでもらい、身近な食事の選択肢として取り入れる機会が作れたらと考えています。

OCHA-SDGs学生委員会のみなさん

途上国支援の取組

お茶大生協の協力のもと、一部の大学グッズの売り上げの2%が、NGO「Room to Read(ルーム・トゥ・リード)」に寄附され、発展途上国の恵まれない女の子が学校に通える長期奨学金として使われています。

お茶大グッズのご紹介



教員紹介

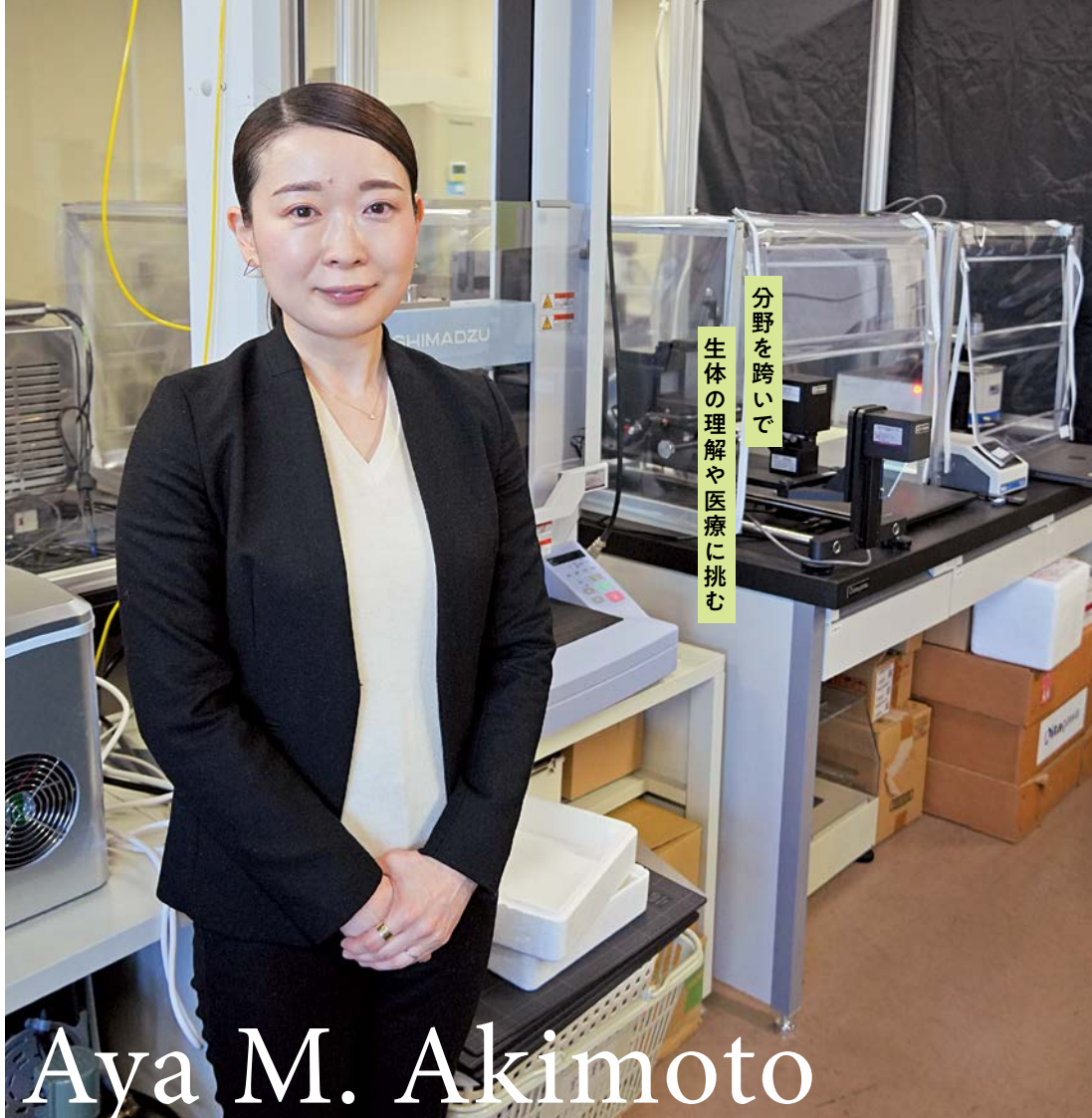
Interview

秋元文先生

共創工学部人間環境工学科准教授

Profile

慶應義塾大学大学院薬学研究科にて学位取得後、理化学研究所にて基礎科学特別研究員、東京大学大学院工学系研究科にて特任助教、助教、講師、准教授を務め2023年10月に本学に着任。東大在職時に2回の産休育休を経験。



Aya M. Akimoto

分野を跨いで
生体の理解や医療に挑む

Q1 研究者を志したきっかけをお聞かせください。

小中高生時代は国語が得意で、高校2年生まで文系クラスにいました。理系科目が得意だと思ったことはなかったの自分では文系だと思い込んでいたのですが、いざ大学で何学部に行こうかと考え始めたころ、面白いと思い始めていた化学に関係する学部に進学したいと考えるようになりました。高校生の当時は、出産などのライフイベントを経ても復職しやすいように見え、薬学部に進学しました。しかし大学生になっていざ病院実習に行ってみると、薬剤師は自分に向いてないように思い、さてどうしたものかと考えてしまったのですが…ちょうどその頃スタートした卒論の研究活動が面白くなり、無我夢中で研究を行っているうちに研究者になっていました。小中高生時代、得意だと思ふことのなかった理系科目は、面白いと思い始めてから勉強が進み、いつの間にか人生の相棒になりました。

Q2 ご専門の研究についてお聞かせください。

生体材料工学(バイオマテリアル)という分

野で研究を行っています。この分野は、1つの分野でありながら、化学・物理学・生物学・医学・薬学をはじめとした多くの分野を跨いで研究を行うところが大きな特徴です。私は大学4年生で卒論研究をスタートした頃からこの分野で研究を行っています。異分野間で行う共同研究のコミュニケーションが面白いからこそ研究に没頭することができたのかなと思っています。現在は、ハイドロゲルという高分子材料について研究を行っています。ハイドロゲルは、ゼリーのようにプルプルした水分を含んだ物質で、身近な例ではコンタクトレンズやオムツに含まれる吸水性樹脂などが実生活に応用されています。実は私たちの身体の中身もハイドロゲルと同様の成分でできているので、ハイドロゲルは生体に近い材料であると言えます。私は、新たな機能性を持ったハイドロゲルを化学合成することで、生体外で細胞を育てるための材料の開発、生体に貼付して使う材料の開発などを行っています。これらの研究は、生物が身体のかたちを作る仕組みを理解する、細胞を活用した再生医療技術の開発に貢献する、皮膚にやさしい医療用テープへの応用を通して高齢の患者さんが多い医療現場に貢献する、というような目的を持っています。研究室で学生さんたち

と一緒にいる研究は基礎的な検討の繰り返しですが、一つ一つ着実に知見や技術を蓄積していくことで、このような目的の達成に少しずつ近づいていきたいと考えています。

Q3 お茶大生へメッセージをお願いします。

コロナ禍を経て皆さんも色々な経験をしたと思います。社会はダイナミックに変化していて、10年前には全く想像できなかったことが今では当たり前になっていたりします。今後も、重要とされる社会課題、人間とAIの関係性、ジェンダーの考え方、女性の生き方などは日進月歩でどんどん変わっていくと思います。そんな不確実性の高い時代に不変なのは、自分自身の感性だったりするのでは、と思っています。大学生は将来に向けていろいろな選択をする時期で、たくさん悩むことがあると思いますが、選択に悩んだら、「ワクワクすること」「感動すること」にたくさん触られるかどうか、という基準で考えてみるのはいかがでしょう？そうやって選んだものは、辛い時にも継続しやすいかもしれません。

担当:小口 正人
基幹研究院自然科学系 教授

Q1 お茶大での学生生活はどのようなものでしたか。

大学時代は山登りサークルに所属しており、夏休みは北海道や屋久島などに行き、全国の山に登りました。今でも大学時代のサークル仲間と週末や長期休みに山に登っています。また、3年生の時に大学周辺の地図をデザインしたクリアファイル等のグッズ制作を、地理学コースの数人で取り組んだことも印象に残っています。チームの中で得意なこと別に作業を分担して、スケジュール通りにものを作る大変さや面白さを感じました。4年生では卒業研究に行き詰まり、締切前日に同期と学生控え室で遅くまで残って卒論を書き上げました。先生方をはじめ、周りの人の力を借りてなんとか卒業することができたと思っています。

Q2 現在のお仕事にお茶大での学びはどのように生きていますか。

帝国書院は、小・中・高校生向けの地図帳や、中・高向けの社会科の教科書や資料集などを出版している会社です。そのため、日々地理や地

図について考える仕事をしています。地理学コースで学んだ、地理的な写真の捉え方や統計の扱い方、GIS(地理情報システム)の演習、自分でまち歩きマップを作成する演習など、どの授業も今の業務に直結していると思います。

授業を受けていた当時は、自分が今学んでいることが何に活かせるのかといったことをあまり想像できず、なんとなく授業を受けていました。今になってもっと真面目に授業を受けていればよかったな…と感じることが多々あります。一方でその時技能を100%身につけることだけが授業の目的ではないのではないかと考えています。先生方が繰り返し話してくださったことや、授業で当たり前に出てきた単語や考え方に触れていたこと、授業の感想を友人たちと話し合ったことで身につけた、地理的な見方・考え方が重要だったのではないかと思います。

私は現在、地図編集室で地図帳の編集を行っています。異動が多い会社のため年によっては全国の高校へ営業に行ったり、デジタル教科書のコンテンツを企画したりしています。どの部署でも「児童や生徒にどうしたら地理や地図の面白さ、楽しさを伝えられるのか」について考えるため、大学時代に培った考

え方が今の仕事に活かされていると感じます。

Q3 お茶大の在学生在にどのようなメッセージを送りたいですか。

お茶大生に限らず、自分自身にとっても大事にしたいと考えていることですが、あまり将来のことを考えすぎずに今やってみたいと感じたことを実行してほしいと思います。やったことで自信が付き、挑戦する前までは考えもしなかった新しいやりたいことが出てくるかもしれません。また、一緒に何かをやってくれる人を気軽に誘える環境もとても貴重だと思います。

お茶大では留学支援やキャリア支援、学生相談室など学生生活をサポートしてくれるシステムが充実していて、親身に相談にのってくださいます。大学には専門知識を持った人がたくさんいるため、困ったことややりたいことについて相談すればどこかに詳しい人がいます。周りの人にも頼りながら、学生生活をとにかくめいっぱい楽しんでほしいと思います。

担当:中野 裕考
基幹研究院人文科学系 准教授

卒業生紹介

Interview

株式会社帝国書院
寺垣沙織さん

Profile

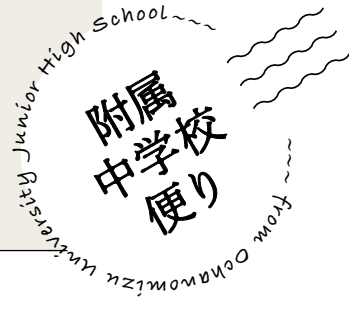
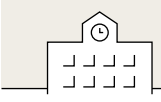
2018年3月、文教育学部人文科学科地理学コース卒業。同年4月より株式会社帝国書院に入社。現在に至る。



地図帳がひらく
未来を信じて

Saori Teragaki

附属学校園からの お知らせ



2024年度の学校生活から

附属中学校の現生徒会長(2024年10月着任)に、2024年の行事や生徒会の活動の様子を書いてもらいました。
今年度はコロナ禍の当時のさまざまな制約もほぼ解消され、
生徒たちも、さまざまな行事や学校活動を思い切り動かしています。



2024年度の体育大会では、PTAのみなさまが寄贈してくださった四色のテントをグラウンドに設置することができました。応援中にテントの中で日差しをしのぐことができたので、仲間に全力で声援を送ることができましたし、万全の姿勢で競技に臨むことができました。また、自分の所属する団の色のテントの中で仲間を応援することで、より結束が深まったような気がしました。
生徒祭では、2日間合わせて、のべ3,743人の方が来校されました。これは、コロナ禍以前

と比べてもかなり大きい数字です。たくさんの方のご来校に、私たちお茶中生もはりきって活動することができました。この生徒祭の中で、私たち役員会は、前年度に引き続き、ウクライナ、そしてガザ地区への募金活動を行いました。在校生だけでなく、来校された方々にもご協力いただきました。ありがとうございました。
そして、2024年度の役員会は、匿名で意見を投書することができるシステムである目安箱の完全なデジタル化に成功しました。それにより、一人に一台ずつ支給されている

Chromebookで気軽に意見を投書することができるようになりました。また、役員会が、投書された意見への回答をより迅速に行うことができるなどのメリットが生まれました。およそ二ヶ月に一度の頻度で意見への回答を公開していくことで、役員会と全校生徒の間のつながりを深め、生徒の意見を活動に反映していけるようにしていく方針です。
最近では、2023年度の秋に導入されたスラックスを着用する生徒も増えてきました。新しい制服の導入も、もともとは生徒が目安箱に投



書した意見に端を発しています。お茶中は、体育大会や生徒祭などの行事を含むさまざまなことを生徒主体で動かしている学校です。これからもお茶中生が中心となり、伝統を大切にしつつ時代の変化に対応していくことができる、そんなお茶中を創り続けていってほしいです。

生徒会長 梨原 希珠

スラックスタイプ(標準C)のデザインは、生徒会役員を中心に生徒の意見を取り入れて決めました。生徒たちが試作し、専門家をお願いして現在のデザインになりました。



附属学校園での出来事 2025年 1月～3月

Mar. 3

Feb. 2

Jan. 1

- 附属高等学校
 - 始業式・大学入学共通テスト(3年)
 - 学力テスト(1・2年)・1年進路講演会
 - 保護者会(1・2年)
- 附属中学校
 - 始業式・保護者参観週間(1・2年)
 - 特別時間割期間(1・2年)
 - 課題発掘セミナー(1年)
- 附属小学校
 - 始業式・防災学習(4年)
 - 保護者会(4年・帰国学校・6年)
- 附属幼稚園
 - 始業式・春を祝う会・クラス懇談会
 - 教育実習事前指導(大学3年生)
 - 1月誕生会・避難訓練
 - 4歳児親子で遊ぶ日・親子体操の会
- いずみナーサリ―
 - 雪遊び・霜柱氷遊び・足湯
 - 避難訓練(地震・食事中・室内待機)
 - 個人面談
- こども園
 - 年年初め2号・3号保育開始
 - 始業式
 - 誕生会・乳児健康診断・全園児保護者会
 - 避難訓練・安全指導・3園合同研究会
 - 第5回ワクワクデー(佐世保独逸)
 - インド女子学生とのフライトラボ
- 附属高等学校
 - 入学検定・合格発表
- 附属中学校
 - 入学検定・合格発表
 - 自主研究ポスター発表(2年)
 - 期末テスト(全学年)・防災学習(1・2年)
- 附属小学校
 - 公開研究会(対面開催)・校外学習(1年)
 - 附中生のお話を聴く会(4年)
 - 保護者会(4年)
- 附属幼稚園
 - 豆まき・公開保育研究会・5歳児遠足
 - 2月・3月合同誕生会
 - 5歳児親子で遊ぶ日
- いずみナーサリ―
 - 節分・避難訓練・初期消火訓練・予告無、火災・主任不在、屋外避難)・保護者会
- こども園
 - 節分(豆まき)・誕生会・避難訓練・安全指導
 - 表現遊びの会(5歳児)
 - 乳児健康診断・表現遊びの会(4歳児)
 - 新年度2号・3号新入園児保護者会
 - 新年度3歳児1号一日入園
- 附属高等学校
 - 期末考査・新入生説明会・答案返却
 - 卒業式予行・歓送会・卒業式
 - SSH生徒成果発表会・修了式
- 附属中学校
 - 保護者会(3年)・音楽行事・歓送会
 - 卒業式・学力テスト(1・2年)
 - 修了式・保護者会(1・2年)・Spring English
- 附属小学校
 - 授業参観・保護者総会・かがみ会総会
 - 郊外園ジャガイモ苗植え等(5年)
 - 学年活動(4・5・6年)
 - 卒業おめでとうの会
 - 校外学習(2・3年)・保護者会(各学年)
 - 個人面談・卒業生の話を聴く会(5年)
 - 卒業式・修了式
- 附属幼稚園
 - ひなまつり・5歳児お楽しみ会
 - PTA総会・卒業式
 - 3歳児・4歳児終業式
- いずみナーサリ―
 - ひなまつり・親子で遊ぶう会
 - 避難訓練
 - (抜き打ち、地震、室内待機または屋外避難)
- こども園
 - ひなまつり・誕生会
 - 新年度2号・3号新入園児健康診断・面接
 - お別れ遠足(4歳児・5歳児)
 - 遠足(3歳児)・親子デイキャンプ(5歳児)
 - 乳児健康診断・遠足(2歳児)
 - 卒園式・終業式
 - 第6回ワクワクデー(机磨き)
 - 避難訓練・安全指導(予告無)



Ochadai GAZETTE

vol.279
Spring
2025

発行日 / 2025年4月1日

発行 / 国立大学法人お茶の水女子大学

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

ご意見・ご感想はこちらまで

広報・ダイバーシティ推進課

E-mail: info@cc.ocha.ac.jp

URL: <https://www.ocha.ac.jp/>



本誌、およびバックナンバーは、
本学ホームページに掲載されています。
どうぞご覧ください。



お茶の水女子大学は
2025年に創立150周年を迎えます



お茶の水女子大学
Ochanomizu University